

### 質問⑤ Question

## セキュリティをつけるとクルマの査定は上がる?

「むしろ中古車にとって、セキュリティはやっかいなシロモノ。というのも、もしかしたらセキュリティのリモコンを前オーナーが渡し忘れていた可能性があるからです。基本的にセキュリティのIDを再登録することはできませんが、それにはまず本体を探し出すことから始めなくてはならないので、そこでまた工賃が発生してしまう。また、万人が便利と思うナビと違い、セキュリティの認知度はまだまだ低いのもその理由。それでも高額モデルがインストールされていたら、再登録の工賃を払ってもお得かも!?

それでは逆に、セキュリティのインストールは配線加工をとまなうだけに、査定が下がってしまうかと言えば、答えは「No」。「めっちゃめちゃに配線加工しているのは論外ですが、基本的に見えない部分でより隠すように加工しているため、査定が下がることはまずないと思います」。

上がらない

### 質問④ Question

## オプション機能の後づけはできる?

「ラーメンのトッピングと同じで、オプション機能の追加はインストールした後も可能です。そもそもセキュリティの正しい選び方は、機能をたくさんつけたいか、つけたくないか。つまり、拡張性のあるものが重要。時間をかけてシステムアップしたい人は拡張性のあるモデルを、必要のない人は拡張性がないモデルを選ぶことが大事です」。



↑このポートの数がすなわち拡張できる機能の数だ

できる

### 質問③ Question

## 高いセキュリティの方が工賃は高い?

「高いモデルは安いモデルに比べ、多機能。機能が多いとその分、配線の作業も多くなる。それが工賃に反映されます。ちなみに3万円のモデルと20万円のモデル、作業のクオリティは同じ。安いからといって、作業の質を落とすようなことは絶対ないのだから安心して下さい。ちなみにオートラウンジでの一般的な工賃は、3万円〜」。



↑機能満載の「バンテラZ703」。その価格は31万2900円〜ナリ

高い



↑エンジンルームから車内へハーネスを通すサービスホール。「その横に配線を通していいのですが、ウチでは一度ハーネスをバラしてその中に配線を通すようにしています」



↑オートラウンジでは、このほかにもさまざまな配線をそろえている

「仮に純正配線の中に入っていることがバレても、すぐにはバラせないし、純正ハーネスもいっしょに配線を切るワケにはいかない。なぜなら窃盗団もクルマを動かさなくなってしまうから通常、セキュリティ本体から出ている配線は作業しやすいうように色分けされている。しかし、オートラウンジでは、セキュリティに詳しい人が見てもそれが何の配線かとすぐに認識されないよう、あえて車体側につなげる配線を別の色に変更。そのため、さまざまな配線が用意されているのだ」。

オートラウンジのお仕事拝見



↑写真はインストール真っ最中の現場を写したものの。メーターパネルやセンターコンソールがはずされ、配線もむきだし状態。一見無惨な姿に見えるのだが、すべては純正の配線にセキュリティの配線を忍ばせるため

### 質問⑦ Question

## 中古品は取りつけてもらえる?

「可能は可能ですが、それが海外モノでしかも正規品ではなく並行品であった場合は、注意が必要です。質問5でもふれましたが、再登録を行う場合、並行品は扱ってくれない場合もあるからです。同じく、何かトラブルが発生した際に頼りになるアフターサービスも受けられない可能性がある。でも、ウチはどんなモノでもウェルカムです(笑)」。

→写真は全国自動車用品工業会の登録証。国内モデルのほとんどは、この認定を受けている。海外の並行モノと違い、これがあると再登録も行きやすいという



可能だけど...

### 質問⑥ Question

## セキュリティの載せ換えは可能?

「クルマを乗り換える際、ナビやオーディオのように、インストールしたセキュリティを載せ換えることは基本的に可能です。しかし、取り外すための工賃、新たなクルマにインストールするための工賃と、ダブルで工賃が発生します。クルマによって使う配線の長さも変わってくるため、ハーネスをまた購入する必要が出てくる。そのため、機種によっては、載せ換える方が高くつく場合もありますね」。

↑ハーネスの別売り設定がないモデルもあり、その際、社外の配線に対応してもらおう

可能だけど...



セキュリティのインストールは、後づけ感を一切排す。その作業性はまさに芸術の域でっせ!

### 世界のおもしろカーセキュリティ



アメリカ(U.S.A) バイソン592 196ページで紹介しているバイソン592は「今イチオシです」と、石原氏。「標準的な性能はもちろん、拡張性も高いアメリカの新作セキュリティ。中でも特長は双方向通信距離が1マイル(1.6km)というところ。そして、リモコンがフルカラー液晶で見やすいしカッコいい。ウチでもインストールできますよ!」

講師は... オートラウンジ代表 石原武典

カーセキュリティはもちろん、ドレスアップに関することならなんでもおまかせのプロショップ代表。石原氏自身、JJA(日本自動車販売商組合連合会)正会員のため、中古車売買も得意というマルチな才能の持ち主でもある。

●オートラウンジ  
TEL 06-6957-7775  
http://www.auto-lounge.jp  
〒534-0013  
大阪府大阪市都島区内代町3-10-15

# VIPセキュリティ

## 第7回「インストールにまつわる7つの質問」講座

4月26日(水)

今月はセキュリティの取り付け=インストールにまつわるギモンをズバッと聞きました。知っているようで意外と知らないことがあるかも!?

取りつけ=インストールは、施工する人=インストーラーの技術、経験、センス、そして考え方にものすごく左右されるもの。

「ちなみに一昔前のアメリカでは、セキュリティ本体や配線を隠さずにインストールするのが主流でした。誤作動した時、配線を抜いてサイレンを止める、そんな考えがあったようです。犯罪に銃がともなう社会性も大きいようですが、一番の理由は国民性じゃないかな」と、代表の石原氏。

一方、日本の場合はその真逆。見えない部分にもものすごく気を使う。というのも、窃盗団にセキュリティを解除されない、それをセキュリティの本質としてとらえているからだ。具体的に例えると、サイレンのついている場所やその配線がすぐに特定されてしまつては、サイレンを止められてしまう。脳である本体の位置はなおさら。メーターパネル奥など、普段では絶対に見えない位置に設置する。オートラウンジの場合、例え同じ車種であっても、インストールする位置は変えるという。光で威嚇するスキヤナやステッカーでセキュリティの存在を明らかにしても、そのインストールは明らかにしない。それがそが日本のプロインストーラーの仕事であり、腕の見せ所なのである。



↑ナンバーを外さないと見えない位置にセットしたサイレン

### 質問② Question

## 輸入車の方が工賃は高い?

「やはり国産車に比べると、輸入車のデータやパーツは入手しにくい。過去に取りつけたノウハウがなければ、インストールは手探り状態となるため、その分、工賃は上がってしまう可能性は大いにあります。そもそもインストール自体を断られるケースもあるため、輸入車オーナーの方は、そのお店が自分と同じクルマをこれまで手がけたことがあるかないかをまず調べるのが大事、とも」。

高い

### 質問① Question

## クルマによって工賃は変わる?

「単純にクルマの大きさが違えば、配線の長さも変わってくるので、工賃は変わります。また例えば、軽自動車と高級車を比べた場合、パネルなどパーツ点数が多いのは高級車。基本的にインストールはパネル類を外して作業を行うのですが、パーツ点数が多いとその分パーツを外す手間が多くなる。その点でも工賃は変わってきます。ただ、軽自動車の方がパネルのツメが割れやすいため、意外と大変なんです(笑)」。

変わる

見た目まるっきりノーマル  
これがインストールの極意